



長崎と天草地方の 潜伏キリシタン関連遺産

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産委員会により、キリスト禁教期の歴史を伝える「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」（長崎県、熊本県）が世界文化遺産に登録されることが決定しました。

「潜伏キリシタン」とは・・・

江戸時代、キリシタン禁制に対して表面的には仏教徒を装いつつ、密かにキリシタンを信仰し続けた人々。

※ 1873年事実上の禁教令撤廃後もその信仰形態を継承している人々のこと（カクレキリシタン）を共にさして「隠れキリシタン」と呼ばれることもある。

今回の「キャッチアップ！！“旬”」では、世界文化遺産に登録された「大浦天主堂」など、長崎を中心とした教会と、潜伏キリシタン（隠れキリシタン）について知ることのできる資料をご紹介します。

【参考資料】

- ・ 「山川日本史小辞典 改訂新版」（日本史広辞典編集委員会／編、山川出版社、2016）
- ・ 「岩波キリスト教辞典」（大貫 隆／編集、岩波書店、2002）
- ・ 「天主堂 光の建築」（雑賀 雄二／著、淡交社、2004）

